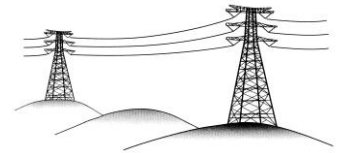


■部会 Report

技術部会 系統連系WGの活動紹介



日本風力発電協会 理事／系統連系WGグループリーダー **鈴木 和夫**
日立エンジニアリング・アンド・サービス株式会社

2007年度の系統連系ワーキンググループの活動は、5月の協会年度総会後の6月分からを第1回目として活動しています。

検討課題の中心は、昨年度から検討を始めている周波数変動対策で、導入量制限が始まっている地域での連系量拡大に向けた調査・検討を進めております。今年度は、東北電力管内の主要ウインドファーム1年間の発電出力データを提供いただき、同一時刻での総合出力変動を解析し、合わせて小規模容量蓄電池設備併設時の変動抑制効果の検討を進めてきました。

これらの解析検討結果については、第5回WG（講習会）として、協会内希望者、風力発電事業者懇話会、およびオブザーバー殿にご参集いただき、報告させていただきました。

また、この出力変動抑制の基本技術になる平滑化試験を開始した試験設備（富士電機システムズ殿、新神戸電機殿、日産ディーゼル殿、川崎重工殿のご協力により実施）の現地説明会及び見学会を実施し、関係者多数のご参加をいただきました。

1. 2007年度の活動状況

月/日	主な活動内容
6/25	第一回WG；鹿島建設会議室－13名 特高送電線埋設検討、エネ庁説明資料
7/17	第二回WG；荏原製作所会議室－14名 既設発電所出力変動解析方向性説明
8/21	第三回WG；電源開発会議室－13名 改正建基法概要、変動解析中間報告
9/26	第四回WG；電源開発会議室－13名 変動解析結果説明、アンケート報告
11/2	第五回（講習会）；JEMA会議室－72名 変動解析結果と連系量、IEC認証制度
11/8	現地見学説明会；秋田県西目－56名 鉛蓄電池、電気二重層キャパシタ、Ni-H電池
12/3	第六回WG；荏原製作所会議室－9名 特高送電線埋設方針、東北電状況説明

2. 今後の活動方針

(1) 東北電エリアの出力変動解析結果

今般の題記変動解析結果は、エネ庁殿へ説明を行ない、来年度の系統対策小委再開に向けて検討いただくことを打診済み。

また、東北電力殿への説明も終了し、10月31日の打合せ結果で、今冬の連系量が限界近くになった状態での挙動を確認した上で、今後の方向性検討するとのことご回答を頂きました。

(2) 今後の導入目標について

2010年3,000MW以降の導入目標は、RPS法から推定される2014年約4,500MWのみである。

一方、NEDOの風力発電ロードマップ（非公式）では、2020年10,000MW、2030年20,000MWが一応示されているが、JWPAでも陸上、洋上、リパワーリングも含めて検討し、2050年までのロードマップを作成する必要があります。

(3) 今後活動テーマについて

今後、次のエリアでの出力変動解析を進める必要がありますが、それとは別に系統連系WGとして取り組むテーマを募集しております。

【テーマ案】

- ① 雷被害の原因及び対策法
- ② 系統連系協議上の問題点と対策法

3. 日本風力発電協会（JWPA）会員の皆様へ

最後になりましたが、お蔭様を持ちまして、今年度の出力変動解析において、会員27社の皆様にその解析結果をご購入いただき、心から御礼申し上げます。ありがとうございました。

また、風力発電事業者懇話会（WPDA）の会員の皆様には、データを提供頂いた上にご購入頂き、ご協力いただいたこと、本紙面をお借りして、心より御礼申し上げます。

毎月の定例活動は、益々重要な局面を迎えつつあり、委員の皆様のご積極的なご参加をお待ち申し上げます。